

医心 伝心

医師会館の過去と将来

県医師会常任理事 堀地 肇

富山県医師会館は1981年8月に竣工し、現在まで約36年経過しています。富山県の象徴とも言える合掌造りをシンボル化したようにも見える外観を持ち、県医師会の建物として長年親しまれてきました。この特殊な構造は、当時の通産省の外郭団体であった(財)機械システム振興協会により、量産型多目的建築システムの開発を目的に工場生産できる建築物として計画され、その実証のために県医師会館として建築されたと聞いております。

このシステムを利用した会館建設には医師会内にも反対が多く、その選定の過程も不明瞭であったため建設の承認は代議員会でも紛糾し、当時の富山市医師会選出の代議員が途中退席した中で議決が行われました。また、会館建設予定地の特性から地下水対策についても危惧する意見も出され、実際に建築後は会館地下部分への地下水の漏出や高い湿度が問題となり、現在でも24時間除湿のみを行い全く使用されていない空間が多くあります。当初、量産型として計画された建築システムでしたが結局は実用化されず、県医師会館および他に1棟建てられたのみとのことです。

2009年に大規模修理がおこなわれ、建物の外部に見える鉄パイプからなる骨格部分の腐食等も含め基本的な構造や設備の老朽化が指摘されました。重要部分には十分な補修がなされ、その時点では約10年以上は建物が維持可能とのことでしたが、それからすでに7年が経過し、将来の会館更新の検討を始める時期に来ていると認識しております。

現在の県医師会館の建設地は1973年に会館建設用地として購入していますが、その後県に売却し、その一部を借地として会館のために使用しています。現在の県有地には新たな会館建設が可能な余地はなく、現在地での建て替え、隣接地買収での建築、会館の移転などを含め、利用可能な土地の情報を集めるとともに費用や立地条件などを含めた検討が必要と考えております。県医師会の立地は県内市町村からアクセスしやすいこと、駐車場が確保できること、取得費用などが重要な要件と考えており、富山インターからのアクセス時間が大きく延長しない範囲での立地可能地の情報も集めております。

現医師会館の建設では、その費用の捻出に当時の県医師会の大きな収益であった保険等の手数料なども当てられています。しかし、現在では収益のある事業は医師信用組合や医師協同組合が行っており、公益法人である県医師会本体は独自の収入に乏しく、その事業は会費、県などからの補助金や事業の委託金などでまかなわれ、財務基盤は当時とは比較にならないほど脆弱となっています。会館更新のための費用の捻出や関連団体から県医師会の事業への貢献についても十分な検討が必要と考えております。平成29年度予算案において会館建設基本構想のための費用を提案する予定です。代議員会において承認されましたら具体的な検討を開始する予定です。